

教師道場 NEWS

授業実践紹介

高等学校第2学年「物語（一）」「通ひ路の関守」『伊勢物語』
「『通ひ路の看守』を読み、あるじの心情を想像する。」

授業改善のポイント

教師が教える場面と生徒が思考・判断する場面を効果的に設計した一単位時間の学習過程



教師は、本時のねらいに迫るために、個で考える時間、ペアで説明し合う時間を効果的に設定し、対象や他者との対話を通じた考えの深まりを促しました。

生徒は、既習事項や前時までのつながりを意識し、言葉の意味を理解して登場人物の心情について予想していくことができました。
感じたことや考えたことを自己でまとめた上で話し合う経験が、解釈の相違を楽しみながら、古典の学習の面白さを追究していくことにつながっていきます。

協議・受講記録から

- ・本時、単元、年間を意識し、生徒にどのような力を身に付けさせていくかを考えて授業を構成していくことが大切だと実感しました。
- ・文法事項の指導について、生徒の実態を把握しながら適切な順序を考え、単元をデザインすることが重要だと感じました。

担当教授が考える授業力向上のためのポイント

- ◆急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりする力を育成するために、話や文章に含まれている情報と情報の関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要です。 【小学校担当】
- ◆授業を通して学力を付け、力を伸ばすことが教師に求められています。そのためには、確かな教材解釈とそこから身に付けさせたい資質・能力を明確にし、国語科ならではの発問や言語にこだわって、綿密な単元計画と本時を作成していくことが大切です。 【小学校担当】
- ◆「何を教えるのか。国語の力とは何か。」を明確に意識することから始め、それをどのように教えるのか、どういう生徒の姿を求めるのか、どのように評価するのかについて授業研究等を通して明らかにし、日々の授業に生かしていくことが授業力向上につながっていきます。 【中学校担当】
- ◆授業力の向上に向けて、授業研究を通して自分の授業を点検し、自己の授業力を客観的に把握することが大切です。その精度を上げることにより、改善点も明確になります。常に自己の国語力の向上に努めなければならないと同時に、高い授業力を身に付けた教員が、珠玉の言語文化を生徒と共に享受することができる教科でもあります。 【高等学校担当】